

■6月26日

ANAHDG、エアアジア(LCC)、共同事業解消、新LCC設立

ANAホールディングスは25日、マレーシアの格安航空会社(LCC)エアアジアとの共同事業を10月31日で解消すると発表した。ANAHDは業績が低迷していたLCC合弁会社エアアジア・ジャパンを100%子会社とし新しいLCCを立ち上げ、成田空港をベースにしたLCC事業を継続する。11月以降の機材や路線など詳細は7月中に決める。

親会社であるエアアジアによると、所有するエアアジア・ジャパン株のすべては24億5000万円でANAホールディングスに売却される。11月1日までに社名を含めたエアアジアブランドの使用は終了し、エアアジアからエアアジア・ジャパンに貸し出されていた航空機も同日までに返却されるという。

会見したANAホールディングスの清水信三上席執行役員は、両社間で年末から議論していたことを明らかにし、その上で「日本の市場ではエアアジアの手法を持ち込むのは限界があると判断した」と述べた。ホームページを中心とした販売手法が日本の市場になじまなかったという。

	エアアジア・ジャパン	ジェットスター・ジャパン	ピーチ・アビエーション
就航日	12年 8月1日	12年 7月3日	12年 3月1日
路線構成	国内線5路線、 国際線3路線	国内線13路線	国内線6路線 国際線3路線
平均利用率	64%	72%	78%
運航機材数	5機	12機	8機

※利用率は昨年8月～今年4月の平均値、ピーチは昨年3月～今年3月

(ロイター)6/25

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE95O06G20130625> (->

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE95O06G20130625>)

(bizmakoto)6/26

<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1306/25/news119.html> (-> <http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1306/25/news119.html>)

(日経)6/10

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD100R0_Q3A610C1EA1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD100R0_Q3A610C1EA1000/)

(ANA IR)6/25

http://www.anahd.co.jp/investors/data/tekiji/pdf/13_06_25-2.pdf (-> http://www.anahd.co.jp/investors/data/tekiji/pdf/13_06_25-2.pdf)

エアアジア(LCC)CEO、ANAHDGと合弁解消するも日本市場へ復帰を明言

(bloombergによると)

アジア最大の格安航空会社(LCC)、マレーシアのエアアジアは25日、全日本空輸を傘下に持つANAホールディングスとのLCC合弁事業を解消すると発表した。合弁会社の運営をめぐり両社で意見が対立していた。

エアアジア・グループのトニー・フェルナンデス最高経営責任者(CEO)は25日の電話インタビューで、ANAによって指名された合弁会社の上級管理職の大半は「LCCビジネスを理解できなかった」と語った。ANAは同日、合弁会社におけるエアアジアの持ち分を買い取ると表明した。

同CEOは、債務を含めエアアジアの合弁会社への出資分を全額回収すると説明した上で、これは利益面でプラスの効果をもたらす可能性があると言った。

フェルナンデスCEOは、成田国際空港からの日本国内の運航でANAと意見が折り合わなかったと述べたものの、それ以上の言及は避けた。両社間の相違は、フルサービスの航空会社としてのANAの歴史とエアアジアのLCC事業におけ

る経験から生じたとも話した。

同CEOはエアアジアは適切なパートナーを見つけ、日本市場に復帰するつもりだと声明した上で、同社とのこうした提携をめぐり3、4人から打診を受けていることを明らかにした。

(bloomberg)6/25

<http://www.bloomberg.com/news/2013-06-25/airasia-ends-ana-tieup-amid-disputes-on-running-low-cost-carrier.html> (-> <http://www.bloomberg.com/news/2013-06-25/airasia-ends-ana-tieup-amid-disputes-on-running-low-cost-carrier.html>)

エアアジアX(LCC)、現行通り中距離路線で乗り入れ

今回のエアアジアとANAHDGの合併解消による、エアアジアグループの中長距離路線、エアアジアXの事業への影響はなく、エアアジアXの日本(羽田、関空)とクアラルンプール間のフライトは従来通り運航される。

(マイナビ)6/25

<http://news.mynavi.jp/news/2013/06/25/176/index.html> (-> <http://news.mynavi.jp/news/2013/06/25/176/index.html>)

外務省、東南アジア5か国、訪日ビザ免除、7月1日から実施

外務省は25日、訪日ビザの免除と緩和に向けて準備を進めてきた東南アジア5ヶ国について、7月1日から実施することを発表した。日・ASEAN友好協力40周年に合わせておこなうもので、タイとマレーシアは免除。ベトナムとフィリピンは数次化し、インドネシアでは数次ビザの滞在期間を延長する。

これにより、ベトナムとフィリピンは滞在期間15日までに限り有効期間の最大3年間は入国できるようになる。また、インドネシアは有効期間は3年間だが、滞在期間が最長30日間となる。

(トラベルビジョン)6/25

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58033> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58033>)

(外務省 プレスリリース)6/25

[インドネシア国民に対する数次ビザの滞在期間の延長\(7月1日\)](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000364.html) (->

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000364.html)

[ベトナム国民に対する数次ビザの発給\(7月1日\)](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000363.html) (-> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000363.html)

[マレーシア国民に対するビザ免除\(7月1日\)](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000362.html) (-> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000362.html)

[タイ国民に対するビザ免除\(7月1日\)](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000361.html) (-> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000361.html)

[フィリピン国民に対する数次ビザの発給\(7月1日\)](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000360.html) (-> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000360.html)

FDA、丘珠空港へ調査飛行、路線開拓を模索

フジドリームエアラインズは7月7日に、名古屋空港—丘珠空港間で調査飛行を実施する。調査には同社の76人乗りエンブラエル社製小型ジェット旅客機に乗客を乗せない状態で、両空港間を1往復する。

将来の定期路線化のためのデータ収集が目的で、北海道路線を開拓したいFDAと地域振興を図りたい地元の思惑が一致した形だが、定期路線化には丘珠空港の滑走路(最低でも1800メートル必要)、駐機場も補強など施設改修が必要となるなど、実現には不透明さも残る。

FDAによると調査飛行は7月7日実施予定。同社の76人乗りエンブラエル社製小型ジェット旅客機に乗客を乗せない状態で、両空港間を1往復する。

札幌市中心部に近い同空港の活性化を考える地元企業経営者らによる「丘珠研究会」が昨秋、シンポジウムを開催。これに以前から丘珠便を視野に入れていたFDAの鈴木与平社長が参加し、計画が具体化した。

現在同社の北海道路線は千歳便を静岡空港から週4便、松本空港から毎日1便を飛ばしている。7～8月には名古屋や静岡空港などから稚内や釧路にチャーター便を就航させる予定。

(静岡新聞)6/25

<http://www.at-s.com/news/detail/696032929.html> (-> <http://www.at-s.com/news/detail/696032929.html>)

ハワイアン航空、仙台—ホノルル直行便就航、免税品店拡大リニューアル

ハワイアン航空は26日、仙台—ホノルル国際空港を結ぶ定期便を就航する。ホノルルと結ぶ定期便は東北唯一で、仙台空港への就航は10年ぶり。

使用機種はワイドボディのボーイング767-300ER。座席数は264席。運航は火曜・木曜・土曜の週3便で、ホノルル発仙台行きはノンストップ、仙台発ホノルル行きは札幌・新千歳空港を経由するワンストップで運航する。

一方、仙台空港は、同便の就航に先立ち、国際線の出国待合室にある免税店を改装した。県などが出資する第3セクター「仙台エアポートサービス」が2億円を投じ、売り場を4割広げ利用者の需要拡大を目指す。

(仙台経済新聞)6/25

<http://sendai.keizai.biz/headline/1445/> (-> <http://sendai.keizai.biz/headline/1445/>)

(朝日新聞)6/25

http://digital.asahi.com/area/miyagi/articles/TKY201306250326.html?ref=comkiji_txt_end_s_kjid_TKY201306250326 (->

http://digital.asahi.com/area/miyagi/articles/TKY201306250326.html?ref=comkiji_txt_end_s_kjid_TKY201306250326)

日航、5月実績、国際線2.9%減、国内線新路線L/F前月より向上

日航は26日、2013年5月のグループ旅客輸送実績を発表した。これによると、国際線旅客数は58万7,529人となり前年同月比2.9%減少(提供座席ASKは3.4%増)した。利用率は71.1%(前年同月72.9%)だった。円安により、東南アジアを中心に外国人観光需要が好調に推移したが、中国線と韓国線の低迷が続いている。

一方、国内線旅客数は月間257万2,177人、前年比4.5%増(提供座席ASKは2.5%増)。利用率は59.9%(前年同月59.6%)だった。

羽田—中部線の搭乗率は40.3%(4月26.1%)だった。また、3月31日から開設した伊丹—函館線の搭乗率は79.6%(同70.6%)、三沢線66.2%(同47.7%)、松山線は44.7%(38.6%)と向上した。

(日刊航空)6/26

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(JALプレスリリース)6/26

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbnRobHlfNyOLnBkZg.pdf (->

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbnRobHlfNyOLnBkZg.pdf)

ニュージーランド航空、2014年、ボーイング787-9、就航地に東京も

ニュージーランド航空は25日、2014年、同社が世界で初めて導入するボーイング787-9型機10機の就航ルートを発表した。それによると、主な就航先は長距離線が東京および上海、中距離線がパース、ホノルル、パペーテとなる。

ボーイング・ジャパンウェブサイトによるとB787-9型機は、標準型のB787-8型機の座席数が210席から250席であるのに対し、250席から290席と「若干拡張したバージョン」。

機内には4種類の座席を搭載しており、ビジネスクラスとプレミアムエコノミー、通常のエコノミーに加え、横一列の3席が平らなソファになるエコノミークラスシート「スカイカウチ」も提供する。スカイカウチのアジア路線への投入はB787-9型機が初となる

(トラベルビジョン)6/25

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58041> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58041>)

(NZプレスリリース)6/25

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000004270.html> (-> <http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000004270.html>)